

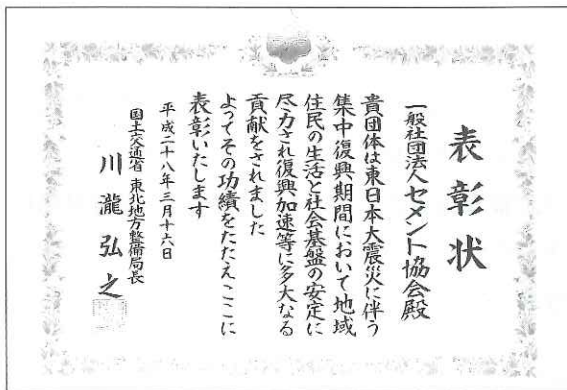
■東北地整から表彰／セ協ら67団体

3月16日、国土交通省東北地方整備局は、東日本大震災からの復興加速に功績のあった67団体に対し、表彰を行った。会場となった仙台合同庁舎には表彰を受ける団体の関係者らが参集、川瀧弘之局長の挨拶に続き賞状が手渡された。

今回の表彰は2011年の東日本大震災から5年が経過し、復旧・復興事業が集中復興期間から復興創生期間に移った節目として、これまでの集中復興期間に地域住民の生活と社会基盤の安定に尽力し、復興加速に貢献してきた建設業や業界団体、自治体などを表彰するもの。

67団体のうちのひとつとして表彰を受けたセメント協会は、震災後のガレキ処理や復興を支える基礎資材としてのセメント安定供給などが評価され、また、これから始まる新たなステージである復興創生期間への期待を込めての表彰といえよう。

なお、当日セ協からは近藤秀貴研究所長が出席、表彰状を受け取った。



■4,300万tを予想／セメント国内需要

2月25日、セメント協会は2016年度のセメント需要見通しを国内需要4,300万t、輸出1,200万tと発表した(表)。

国内需要は、官需では、国の2016年度公共事業当初予算案は前年並みであるものの、2015年度同予算に前年からのずれ込みを織り込み比較すると実質減額となること、また、工期が長期化していることなどから、減少するものと想定され、民需については、住宅投資は消費税増税を控えて駆け込み需要が見込まれること、設備投資は東京オリンピック・パラリンピック関連工事が始まることもあり緩やかな回復が継続する見込みがあることから、増加するものと想定される。このような背景から、4,300万tと見通した。

輸出は、他国品との競合が見込まれるものの、旺盛な需要を背景として、アジア諸国やオセアニアを中心に依然根強い引合いが期待されることから、対前年150万t増の1,200万t程度と想定した。

2016年度のセメント需要見通し

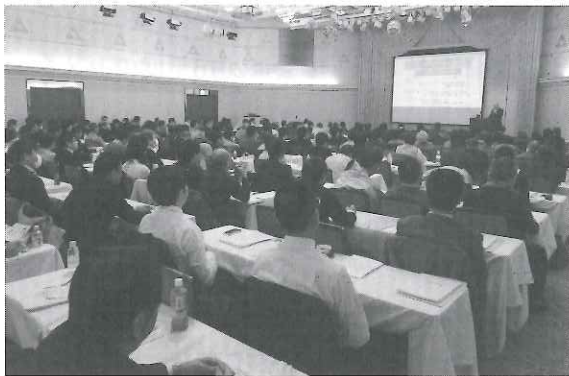
(単位：千t, %)

項目	国内需要		輸出	
		前年比		前年比
2015年度見込み	43,000	94.4	10,500	111.5
2016年度見通し	43,000	100.0	12,000	114.3

■セメント系固化材の利活用セミナー(仙台)を開催

2月23日、セメント協会はホテル法華クラブ仙台・ハーモニーホール(宮城県仙台市)で、「セメント系固化材の利活用セミナー」を開催した。当協会では、東北地方太平洋沖地震発生後、セメント系固化材を用いた地盤改良の耐震効果を調査し、2013年2月に「東日本大震災におけるセメント系固化材を用いた地盤改良に関する調査報告書」、2015年3月に「大





約200名の聴講者が集まった会場

規模災害に対してセメント系固化材による地盤改良が果たす役割」と題した2つの報告書を取りまとめた。本セミナーでは、上述の調査概要のほか計6件の講演を行った。

最初に、北誥昌樹氏(東京工業大学大学院 教授)より、「大規模災害に対してセメント系固化材による地盤改良が果たす役割」、斎藤準護氏(セメント協会 震災WG)より「セメント系固化材の概要と適用事例調査について」と題して、具体的な調査内容をそれぞれ紹介。続いて、報告書で適用事例が紹介されている仙台湾南部海岸堤防復旧に関して、小山内 慶氏(国土交通省仙台湾河川国道事務所 海岸課長)より「仙台湾南部海岸 災害復旧事業概要」と題して、大震災を教訓とした粘り強い堤防の実現について解説した。さらに、森川嘉之氏(港湾空港技術研究所地盤改良研究チームリーダー)より「セメント系固化処理工法の新しい改良形式について」と題し

て、液状化対策として用いる場合の有効な設計法を、勝見 武氏(京都大学大学院 教授)より「発生土や分別土の利用と地盤環境への影響」と題して、建設工事に伴う発生土の利用と改良、地盤環境への影響について解説した。最後に、久田 真氏(東北大学大学院 教授)より「震災から5年〜できたこと、やるべきこと〜」と題して、震災復興のこれまでに成し遂げられたことと、これから取組まれるべき課題について解説した。

セメント系固化材の利活用セミナーは、来年度も全国各地で開催を予定している。本セミナーに関する問合せは普及部門(☎03-5200-5060)まで。

■セメント協会研究奨励金の交付決定

セメント協会は、セメント化学およびコンクリート化学に関する研究を助成し、研究活動の活性化を図ることを目標にして創設した「セメント協会研究奨励金」の第30回交付対象者を下表の通り決定した。対象者には研究テーマごとに、1件につき100万円を限度に研究助成金を交付することとなる。

この制度は1986(昭和61)年に創設され、翌1987年の第1回から今回までにのべ310名の研究者に交付している。研究奨励金の公募は毎年秋に行い、研究奨励金審査委員会による審査を経て、交付対象研究が決定される。なお、2017年度の募集要項は本誌9月号および当協会ウェブサイト等でご案内の予定。

第30回(2016年度)セメント協会研究奨励金交付対象者

(敬称略・順不同)

氏名	所属	研究題目
市川 聡	名古屋工業大学	アウインービーライトセメント構成鉱物の結晶構造と水和反応性に関する研究
佐藤賢之介	新潟大学	高活性β-C ₂ Sを利用した再生セメントの設計開発と水和反応特性
YOGARAJAH Elakneswaran	北海道大学	C-A-S-Hの表面電荷が放射性核種の固定化に及ぼす影響
五十嵐 豪	東北大学	ゾル-ゲル法を用いたC-A-S-Hの合成手法に関する研究
須田裕哉	豊田工業高等専門学校	乾燥の条件や期間の違いがセメント硬化体の水和物の性質と物質移動性状の関係に及ぼす影響
籠 隆行	近畿大学	X線CT法による表面加熱されたコンクリート内部の評価値が示す物理化学的劣化状況の解明
鎌田知久	東京大学	コンクリート中への塩分浸透の停滞現象とその支配機構に関する包括的研究

※交付対象者の所属は申請時のもの。

第44回セメント協会論文賞決まる

セメント協会は、3月24日の理事会でセメント協会論文賞選考委員会(委員長:坂井悦郎・東京工業大学大学院教授)より推薦のあった以下の4編を第44回(2016年度)セメント協会論文賞として決定した。

なお、表彰式は5月10~12日に東京池袋・ホテルメトロポリタンで開催の「第70回セメント技術大会」2日目午後に行われる予定。

セメントの廃棄物・副産物の資源化を表す環境指標による各種セメントの評価

星野清一 [太平洋セメント(株)], 河合研至 [広島大学大学院], 久保田 修, 平尾 宙 [太平洋セメント(株)]

長期室内試験に基づくDEF膨張の影響要因の評価

川端雄一郎 [国立研究開発法人港湾空港技術研究所], 小川彰一, 高橋晴香 [株太平洋コンサルタント], 佐川康貴 [九州大学大学院]

点過程としてのモルタル中の気泡分布の特徴と気泡間隔特性値の提案

古東秀文, 室谷卓実 [金沢大学大学院], 五十嵐心一 [金沢大学]

セメントモルタルの水和挙動や硬化物性に及ぼす攪拌作用の影響

高橋恵輔 [宇部興産(株)], Thomas Bier [TECHNISCHE UNIVERSITÄT BERGAKADEMIE FREIBERG]

ぜひ一度ご覧下さい 一般向け環境パンフレット



セメント協会はとかく難しくなりがちな社会資本整備への取り組みや循環型社会への貢献を楽しいイラストや写真・グラフを多用してわかりやすく解説したパンフレットを作成しています。

大人から子供たちまで、あらゆる世代の方々にご理解いただける内容です。ご希望の方には無料でお届けいたします。申込みは部数と送付先を明記の上、下記までファクスでお申込み下さい。

(一社)セメント協会 広報部門 電03-5200-5062

[おもな内容] 1. みんなの安全な暮らしを守るコンクリート 2. セメントってどんなもの? 3. 世界トップクラスの省エネ技術 4. 廃棄物をセメントの原料に 5. セメント工場がなかったら日本はゴミの山? 6. 未来を守るセメント工場